

ホタル幼虫放流式 蛍火を期待して



元気に育ててね

中泊町ホタルの会(会長・荒関 寿久)が、4月28日(火)滝ノ沢ふるさと砂防愛ランドで今年もホタル幼虫放流式を行い、中里小学校5年生37人と関係者20人が参加しました。

開会式では、荒関会長が「成虫になれるようお願いを込めて放流してください。そして夏のホタルまつりには、ぜひ見に来てください」と挨拶。今年は合併10周年の節目



みんなで記念写真

であり、例年の10倍となる源氏ボタルの幼虫約3000匹と餌になるカワニナ約6000個をそれぞれ、20匹に分けて放流しました。

参加した小学生は「元気に育てて欲しい。自分たちが放した幼虫が、ホタルになつて飛んでいるところを早くみてみたい。ホタルまつりが楽しみです」と期待を膨らませていました。

ホタルまつりは、この夏10回目を迎えます。幼虫の放流式は13回目となりました。

小泊小年少女発明クラブ開講

「風船ロケットで遊ぼう」

小泊小年少女発明クラブが4月25日(土)日本海漁火センターで開講式を行いました。今年度は7人の新入部員が加わり、全17人でクラブの活動がスタートしました。開講式では、沼田雅輝会長から「学校では味わえないことをこのクラブを通して、是非、経験してほしい」と挨拶がありました。

開講式の後には、相澤英知専任指導員(中里小学校勤務)による1回目の講座「風船ロケットで遊ぼう」が行われました。クラブの子どもたちは、全長約60センチの小型風船ロケットや全長約120センチの大型風船ロケットを2階の



風船ロケット作成中

大ホールで飛ばしていました。中には、15メートル以上の飛距離を出していた子もいました。

今回の講座では、空気の性質やロケットを遠くに飛ばすための工夫について学びました。講座の最後には、完成した風船ロケットを持ち寄りながら、全員で飛距離や的当て競争を行いました。飛距離の部では、北島シュリさん(小泊小学校6年生)が見事優勝しました。同クラブでは月1回ペースで講座を開催し、秋からは2月に行われる青森県ジュニアロボットコンテストに向けて活動していきます。



どこまで飛ばせるかな?

奉仕の心を育てる

中里高校が全校奉仕活動

全校生徒教員が一丸となって地域貢献をしようと、今年も5月1日(金)町内2箇所で、中里高校生徒と教員が奉仕活動を行いました。

1年生12人は町運動公園の野球場でスタンド内のゴミ拾いやグラウンドの土の補修作業をしました。

2年生20人は同公園の陸上競技場でトラック脇の側溝に溜まった落ち葉や小枝などの片づけを担当。協力しながら作業をしました。

3年生26人は、同校近くの内湯療護園・きりん館で、施設の窓ふきや車いすなど介護用品のふき掃除で奉仕しました。

作業を終えて生徒たちは「使う人のことを考えながらふいた。気持ちよく使ってくれたら嬉しい」と話しました。また、施設担当者は「今日は、私たちができない部分も掃除してくれて館内がきれいになった。利用者も喜んでいる。いつでも遊びに来てください」と高校生の奉仕活動に感謝していました。



運動公園でゴミ拾い



おやつをどうぞ

消防団定期観閲式 息の合った団体行動

消防団定期観閲式が、5月4日(月)パルナス駐車場で行われました。この日は日差しが照りつけ、団員たちは額に汗をにじませていました。町内各分団が日頃の成果を観閲者に披露することがこの式の目的でもあり、約150人の団員が参加しました。

人員姿勢服装点検や車両機械器具点検、分列行進のほか、放水訓練、玉落とし競技で各団が競いました。

式典に移り、長年消防団に尽力した団員たちへの表彰や競技の表彰が行わ



分列行進



放水訓練

れました。各表彰、観閲者講評、団長訓示、来賓祝辞につづき、受章者を代表して、25年以上団員を務める副団長の成澤清志さんが「受章に感謝している。今後とも消防人として奉仕していきたい」と謝辞を述べました。

玉落とし競技の結果は、自動車ポンプの部1位は第2分団(派立・宮野沢)、可搬式ポンプの部1位は第8分団(尾別・高根)。服装、車両点検や行進などを競う優良分団は、第10分団(今泉)が1位となりました。